

彦根市立病院

地域連携 だより

彦根市立病院

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地
TEL : 0749-22-6050 (代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室

TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093



いつもありがとうございます

平成30年度 新たなスタートをむかえて

彦根市立病院 院長代理
地域連携センター長
日村 好宏

日頃は、彦根市立病院 地域医療連携室の運用にご理解を頂き有難うございます。

昨年から、“地域連携だより”を発行して、当院がどのような専門診療を行っているかをお知らせしてきました。最近、先生方からの紹介患者さんが増え、その効果を実感しています。また、この1年間で地域医療支援病院の施設認定取得に必要な月ごとの紹介率50%以上と逆紹介率70%以上を維持することが出来、当院の念願の一つが実現できそうです。ただし、この基準値を維持するためには、専門診療のさらなる充実や病状の安定した患者さんのかかりつけ医へ誘導するなど、病院と地域の先生方との連携を強化する必要があると感じています。

5月には、320列検出器を備えた高性能CT診断装置が導入され、冠動脈や脳血管を含めたあらゆる臓器の画像診断機能の向上が期待されます。また放射線治療装置も更新されることが決まり、がん拠点病院としてがん診療の新たな展開を目指していきます。

今後も、当院で日々進歩する専門診療についての情報を発信し、先生方から適切に多くの患者さんをご紹介していただけるために、病院スタッフが一丸となり高度で安心・安全の医療を提供していきますのでよろしくお願いします。

彦根市立病院 地域医療連携室

業務時間：月～金曜日：午前8時30分～午後7時（但し木曜日は17時15分）土曜日：午前9時～午後12時30分
連絡先：地域医療連携室 TEL 0749-22-6053(直通) FAX: 0749-22-6093



骨密度検査

～TBS (腰椎海面骨構造評価) について～

4

2018

このたび当院に導入いたしました骨密度装置では、腰椎+大腿骨近位部D X A法で検査を行っています。従来の前腕骨の測定に比べ、精度が上がり、骨密度だけではなく骨質の評価も行うことによって、骨粗しょう症の治療に役立つと考えられます。

今回はこの**TBS (腰椎海面骨構造評価)**について紹介いたします。

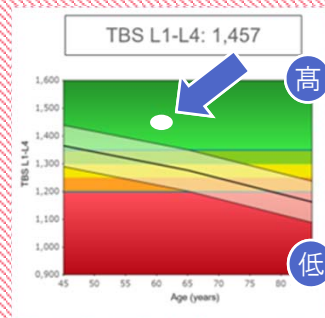
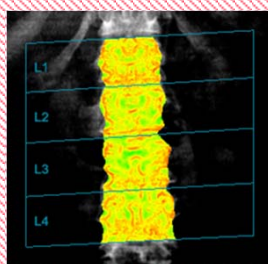
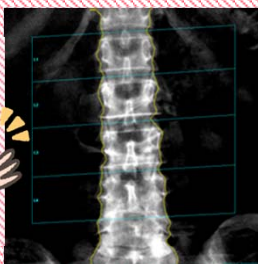


TBSは腰椎のD X A検査で得られるデータから、専用のソフトを用いて計算されます。D X A画像における各画素の濃度変動を表すテクスチャー指標で、単位を持ちません。TBSは、あくまでも海面骨構造の間接的な指標であり、D X A画像で骨梁を識別して直接計測しているわけではないのです。例えば骨梁が密に分布した海面骨と、所々で骨梁が欠けている海面骨とでは、それらを2次元に投影した画像において、濃度変動のパターンが異なります。こうした濃度変動の違いが、海面骨構造の違いを反映することを利用した指標と言えます。

TBSは原発性および続発性骨粗しょう症の骨折リスクと関連し、閉経後の女性や高齢男性において骨密度測定による骨折リスク評価の精度を高めることが示されています。

これからの骨粗しょう症評価として、**TBSを骨密度に組み合わせ、骨折リスク評価が可能**となります。

例えば、診療にどう利用するの？



骨密度は低い
TBSは高い

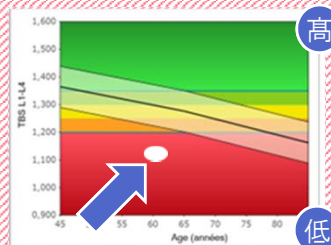
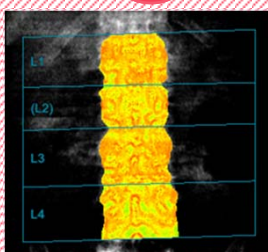
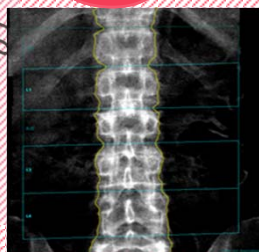


軽い薬剤

骨密度の評価が同じぐらい低くても

TBSでは違う評価！

≠



骨密度も
TBSも低い



本格的な薬剤

★AさんとBさん、骨密度の評価が同じぐらい低くても、TBSでは違う評価となることがあります。その時は、使用する薬剤が変わります。

骨密度検査に関する注意事項

- 造影剤が検査結果に影響を及ぼすことがあります。そのため造影検査後2日間は骨密度の測定をすることができません。造影検査を依頼される場合は、ご配慮をお願いします。
- TBSの計算には身長と体重のデータが必要となりますので、紹介状に記入していただくと幸いです。



かかりつけ医の皆様へ、お薬のお役立ち情報！ ～骨粗鬆症薬について～



骨粗鬆症が関与する骨脆弱性骨折は連鎖することが知られています。
上肢の骨折（橈骨遠位端骨折・上腕骨近位部骨折）が起こった場合、その数年後には胸腰椎椎体骨折を起こし、さらにその後大腿骨近位部骨折や多発性胸腰椎椎体骨折が起こることが判っています。
骨折の連鎖を食い止めるために、積極的な骨粗鬆症の治療が必要です。

骨粗鬆症の薬物治療

- ①大腿骨近位部骨折や胸腰椎椎体骨折の既往がある場合骨密度の数値に関係なく、薬物治療が必要です。
- ②上肢などの骨脆弱性骨折の既往が有り、骨密度のYAM値（若年者比）80%未満の場合
- ③脆弱性骨折の既往が無い場合でも、骨密度の骨密度のYAM値（若年者比）70%未満の場合

これら①～③に該当する場合、下記Ⅰ）～Ⅳ）の治療法を推奨します。



Ⅰ) テリパラチド（副甲状腺ホルモン薬）皮下注製剤

- i) フォルテオ（毎日 自己注射）
- ii) テリボン（週1回 医療機関で注射）



Ⅱ) デノスマブ（抗RANKL抗体薬）皮下注製剤

- i) プラリア（6か月に1回 医療機関で注射）



Ⅲ) ゴレドロン酸製剤

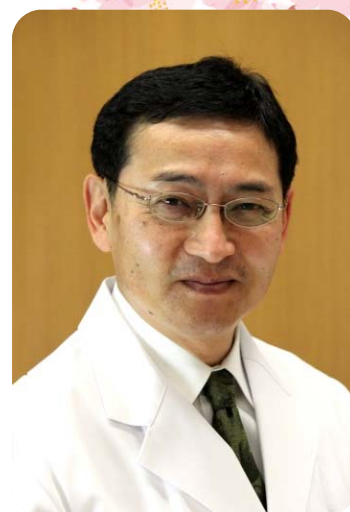
- i) リクラスト 点滴静注（年1回 医療機関で実施）



Ⅳ) ビスホスホネート薬

- i) イバンドロン酸製剤 ボンビバ（月1回 静注または内服）
- ii) ミノドロロン酸製剤 リカルボン、ボノテオなど（月1回 内服）
- iii) リセドロロン酸製剤 ベネット、アクトネルなど（内服 月1回、週1回、毎日など服用方法の種類は豊富）
- iv) アレンドロン酸製剤 ボナロン、フォサマックなど（月1回点滴、週1回内服など 投与方法も服用方法も種類は豊富）など

※Ⅱ）～Ⅳ）の治療については、顎骨壊死の危険性が指摘されていますが、その発生頻度は極めて低く、骨折を抑制する利点を考慮すれば、薬物治療を躊躇する必要は全くないと考えています。



整形外科 堀 裕彦



先生方へ

骨粗鬆症の病診連携で求められているのは、整形外科の医師とかかりつけ医との協力による「双方向型」の診療です。当院整形外科へ紹介いただければ、骨密度測定とセットで診察し、薬処方のご案内もさせていただきます。1～2回/年、検査を含めた紹介をしていただければ幸いです。

★依頼項目

- ☐ 検査結果、骨粗鬆症治療依頼 → 整形外科宛てに紹介状
- ☐ 検査結果のみ希望 → 放射線科宛てに紹介状

『骨折予防のための骨粗鬆症治療をかかりつけ医と行う』ことを目標に地域連携センターと努力していきたいと思いますのでご協力よろしくお願いいたします。



人生の最終章を 自分らしく ～彦根市立病院は、かかりつけの先生と連携して、「看取り」を支援 します～

以前にもこの広報誌で、彦根市立病院に**在宅診療科（在宅医療支援室）**があり、**在宅医療（訪問診療）・看取り**を行っている事はお知らせ致しましたが、実は、様々な形で、地域の先生方との連携をとりながら看取りの支援を行っています。

彦根市立病院の**在宅診療科（在宅医療支援室）**から訪問診療を開始する場合、大きく分けて以下の3つの経路からの紹介で始まります。

- ①院内の他科（内科・外科など）の先生方からの紹介
- ②**地域の開業医の先生方からの紹介**
- ③地域のケアマネージャーさん等からの紹介



在宅診療科 一岡 慶紀

どの場合でも、*「今まで何とか通院していたけど、病状の悪化でいよいよ難しくなった（けど、医療的な介入が必要）」「なるべく入院せず、最期まで自宅に居たい、自宅で看取りたい」といった、

ご本人・ご家族の状況や希望を汲み取られての紹介です。「訪問診療」についての周知不足もあり、実際にお話を伺うと、必要なのは訪問診療ではなく、別の支援である事もあり、相談を頂いても、訪問診療でなく別の支援の形を提案させて頂く事もあるのですが、今回は冒頭でも触れましたように、②の場合についてお話させていただきます。

人生の最期をどのように過ごすのが良いのかについては、病気の状態だけでなく、家族の状況や周囲の環境に加えて、本人・家族の人生観を踏まえて考える事が重要です。もともと「**かかりつけ**」の診療所がある場合、紹介元の先生から、その点に関する情報があるため、非常にスムーズに訪問診療を導入できます。

紹介後、基本的には在宅診療科で診療を引継ぎますが、場合によっては、紹介元の先生にも不定期に往診頂いたり、あるいは、方針決定に迷うような状態になった際に相談に乗って頂いたりという形で、継続的に関わって頂いております。

また、地域にも訪問診療を行って頂いている先生方がおられ、当院かかりつけの方であっても、訪問診療開始にあたっては、そのような先生方を紹介させていただく事もあります。そして、先生方の支援として、夜間休日の急変時の対応を一時的に当院が担ったり、一時的な入院が必要になった場合の受け入れを担ったりという形で、お互いの長所を活かしながら連携をしています。

今までの繋がりが無くなるという事は、特に病状・状況が悪化した際には、ご本人やご家族にとって非常に不安を抱きやすい体験であり、当院では、出来る限りそのような不安を軽減できるように、これからも地域の先生方と協力しながら、地域での看取りを支援していきたいと思っております。

3月をもって退職となる医師

◆ 在宅診療科・地域連携センター次長：切手 俊弘

『これまで、多くの先生方や関係者の皆さまには大変お世話になりました。
今後も、地域の健康水準の維持・向上に向けて研鑽努力してまいりますので、
今後ともよろしくお願い申し上げます。』

- ◆ 呼吸器科：濱田 哲
- ◆ 泌尿器科：鄭 裕午
- ◆ 循環器科：眞鍋 奈緒美
- ◆ 小児科：佐藤 彩

今までお世話になりました。
本当にありがとうございました。

